

計算手順書

特定術式における手術開始前1時間以内の予防的抗菌薬投与率

1. データシートの作成
 - a. 入院を対象とする。ステップ1-bに進む。
 - b. Infデータ項目詳細に準拠して1手術あたり1レコードでデータシートを作成する。ステップ1-cに進む。
 - c. 入院中、退院した患者を問わず在院日数が120日より大きい、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。ステップ1-dへ進む。
 - d. 入院中、退院した患者を問わず在院日数が120日以下の場合、ステップ2へ進む。
2. 患者年齢の計算
 - a. 患者の年齢は、入院日から生年月日を引いた年(入院時患者年齢)とする。入院日および生年月日の月日部分も考慮して正確な年齢を算出し、ステップ3に進む。
3. 患者年齢のチェック(18歳未満の症例を除外する)
 - a. 患者年齢が18歳未満の場合、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
 - b. 患者年齢が18歳以上の場合には、ステップ4に進む。
4. 主たる術式のチェック(対象術式以外を除外する)
 - a. 主たる術式が、表5.01、5.02、5.03、5.04、5.05、5.06、5.07、5.08のいずれかに一致しない場合は、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
 - b. 主たる術式が表5.01、5.02、5.03、5.04、5.05、5.06、5.07、5.08のいずれかに一致する場合には、ステップ5に進む。
5. 主たる術式の再チェック(対象術式以外を除外する)
 - a. 主たる術式が、表5.06、5.07のいずれかに一致する場合には、ステップ5-a-①、5-a-②を実施する。
 - ① 複術式1~24のいずれかが表4.07と一致する場合は、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
 - ② 複術式1~24が存在しないか、表4.07のいずれとも一致しない場合は、ステップ6に進む。
 - b. 複術式1~24が表5.06、5.07のいずれとも一致しない場合は、ステップ6に進む。
6. その他の手術状況のチェック(主たる術式の前後3日以内の全身/脊椎/硬膜外麻酔での手術手技を除外する)
 - a. その他の手術状況がYの場合、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
 - b. その他の手術状況がNの場合、ステップ7に進む。

7. 臨床試験・治験ステータスのチェック(臨床試験・治験患者を除外する)
 - a. 臨床試験・治験ステータスがYの場合は、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
 - b. 臨床試験・治験対象ステータスがNの場合、ステップ8に進む。
8. 主たる診断のチェック(特定の病名以外を除外する)
 - a. 主たる診断が表5.09と一致する場合は、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
 - b. 主たる診断が表5.09と一致しない場合は、ステップ9に進む。
9. 麻酔開始前の感染状況のチェック（術前の感染症例を除外する）
 - a. 麻酔開始前の感染状況がYの場合、測定カテゴリBに割り当て、分母より除外する。
 - b. 麻酔開始前の感染状況がNの場合、ステップ10に進む。
10. 皮膚切開日のチェック
 - a. 皮膚切開日が特定できない症例の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
 - b. 皮膚切開日が特定できる症例の場合、ステップ11に進む。
11. 皮膚切開時刻のチェック
 - a. 皮膚切開時刻が特定できない場合、測定カテゴリDに含め、分母対象とする。
 - b. 皮膚切開時刻が特定できた場合、ステップ12に進む。
12. 抗菌薬名1、抗菌薬名2のチェック（周術期に抗菌薬が投与されていない症例を除外する）
 - a. 抗菌薬名1、抗菌薬名2の両者が表2.1のいずれかに一致しない場合、測定カテゴリBに割り当て、分母から除外する。
 - b. 抗菌薬名1、抗菌薬名2のいずれかが表2.1のいずれかに一致する場合、ステップ13に進む。
13. 抗菌薬投与日1、抗菌薬投与日2のチェック
 - a. 抗菌薬投与日1、抗菌薬投与日2の両者が不明の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
 - b. 抗菌薬投与日1、抗菌薬投与日2のいずれかが特定可能な場合、ステップ14に進む。
14. 抗菌薬投与時刻1、抗菌薬投与時刻2のチェック
 - a. 抗菌薬投与時刻1、抗菌薬投与時刻2の両者が不明の場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
 - b. 抗菌薬投与時刻1、抗菌薬投与時刻2のいずれかが特定可能な場合、ステップ15に進む。
15. 抗菌薬投与タイミングI-1の計算(周術期の抗菌薬初回投与の時期を算出する)
 - a. 抗菌薬投与日1と抗菌薬投与時刻1がいずれも特定可能な場合、(皮膚切開日+皮膚切開時刻)から(抗菌薬投与日1+抗菌薬投与時刻1)を引いた整数(単位：分)を抗菌薬投与タイミングI-1とする。ステップ16へ進む。

- b. 抗菌薬投与日1と抗菌薬投与時刻1のいずれかが特定不可能な場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。

16. 抗菌薬投与タイミングI-2の計算(皮膚切開時間直前の抗菌薬投与時期を算出する)

- a. 抗菌薬投与日2と抗菌薬投与時刻2の両者が特定可能な場合、(皮膚切開日+皮膚切開時刻)から(抗菌薬投与日2+抗菌薬投与時刻2)を引いた数(単位：分)を抗菌薬投与タイミングI-2とする。ステップ17へ進む。
- b. 抗菌薬投与日2と抗菌薬投与時刻2のいずれかが特定不可能な場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。

17. 抗菌薬投与タイミングI-1のチェック(周術期の抗菌薬初回投与が皮膚切開後の場合のチェック)

- a. 抗菌薬投与タイミングI-1が負の整数の場合、測定カテゴリDに含め、分母対象とする。
- b. 抗菌薬投与タイミングI-1が0または正の整数の場合、ステップ18に進む。

18. 抗菌薬投与タイミングI-2のチェック(例外症例のチェック)

- a. 抗菌薬投与タイミングI-2が負の整数の場合、測定カテゴリDに含め、分母対象とする。
- b. 抗菌薬投与タイミングI-2が0または正の整数の場合、ステップ18に進む。

19. 抗菌薬投与タイミングI-1と抗菌薬投与タイミングI-2のチェック(例外症例のチェック)

- a. 抗菌薬投与タイミングI-2から抗菌薬投与タイミングI-1を引いた数(単位：分)が負の整数の場合、測定カテゴリBに含め、分母より除外する。
- b. 抗菌薬投与タイミングI-2から抗菌薬投与タイミングI-1を引いた数(単位：分)が正の整数の場合、測定カテゴリDに含め、分母対象とする。
- c. 抗菌薬投与タイミングI-2から抗菌薬投与タイミングI-1を引いた数(単位：分)が0の場合、ステップ20へ進む。

20. 抗菌薬名2のチェック(120分前から投与が必要な抗菌薬の特定)

- a. 抗菌薬名2が表3.8、3.10のいずれかに一致する場合、ステップ21へ進む。
- b. 抗菌薬名2が表3.8、3.10のいずれとも一致しない場合、ステップ22へ進む。

21. 抗菌薬タイミングI-2の再チェック(120分前から投与が必要な抗菌薬のタイミングのチェック)

- a. 抗菌薬タイミングI-2が0かつ120以下の場合、測定カテゴリEに割り当て、分子対象とする。ステップ23へ進む。
- b. 抗菌薬タイミングI-2が0未満または120より大きい場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。ステップ23へ進む。

22. 抗菌薬名2の投与経路のチェック(注射薬以外の抗菌薬のチェック)

- a. 抗菌薬名が表2.1bのいずれかに一致しない場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。
- b. 抗菌薬名が表2.1bのいずれかに一致する場合、ステップ23へ進む。

23. 抗菌薬タイミングI-2の再チェック(60分前から投与が必要な抗菌薬のタイミングのチェック)

- a. 抗菌薬タイミングI-2が0以上かつ60以下の場合、測定カテゴリEに割り当て、分子対象とする。ステップ24へ進む。
- b. 抗菌薬タイミングI-2が0未満または60より大きい場合、測定カテゴリDに割り当て、分母対象とする。ステップ24へ進む。

24. 分母・分子の計算

- a. これまでの測定カテゴリDの総数を求める。ステップ24-bへ進む。
- b. これまでの測定カテゴリEの総数を求める。ステップ24-cへ進む。
- c. 分母＝測定カテゴリDの総数＋測定カテゴリEの総数。ステップ24-dへ進む。
- d. 分子＝測定カテゴリEの総数。終了。